

- ◆ 会 場：柏崎市産業文化会館 第一会議室
- ◆ 出席委員：浅賀・新野・伊比・上村・川口・久我・佐藤・高橋（武）・高橋（優）
牧・宮島・吉野委員 … 現委員 12名
天野・関口・高橋（義）・萩野委員 … 新委員 4名
- ◆ オブザーバー：保安院／今井所長・大嶋副所長・嶋崎保安検査官 エネ庁／七部所長
東電／森総括 GM
- ◆ 事務局：柏崎市／須田危機管理監・駒野課長 阿部主任 刈羽村／武本課長
広報センター／永井事務局長・石黒主事

➤ 自己紹介

会長挨拶の後、現委員及び新委員、オブザーバーの自己紹介がされた。

➤ 地域の会の概要説明

会長より、地域の会の発足経緯や概要、これまでの活動履歴について説明。

- 〈会長〉・住民の目線で、遠慮することなく自由に発言をしていただきたいが、オブザーバーやメディアに正しく伝えるためにも、自分の基本的な立場や考えもはっきり発信していただきたい。
- ・中越沖地震後は、地盤や設備など専門的議論も行われている。まだしばらくは続くと思うが、本来、発電所の透明性確保を目的として発足した会。

➤ 委員意見交換

〈現委員〉・6年間やってきて一番画期的なことは、「賛成、反対、中間それぞれの考えを持つ人が同じ場で議論する」ことだと思う。これは行政主導でないと難しいことだが、全国的にみてもどこにもない会。一同に会し、議論する場を壊してはいけないという思いがあった。いつでも壊れる可能性があるということで、相手の発言に激しく応酬することを控え、慎重にしてきたところがある。そういう点も多少なりとも配慮して議論しないといつ空中分解してもおかしくない、そういう関係で集まっている面があると思う。

・2002年以來、ひび割れ隠し、データ改ざん、地震と続く中で、それぞれが思い思いのことを言いたい放題言えればいいかと言えば、そういう時代でもないのではないか。それはある意味では市民からの要望、期待であると考えて、お互い節度を持ちながら議論することが大事と思う。

〈現委員〉自分の意見ははっきり言いながらも相手の意見は尊重するという立場をわきまえてきたからこの会は続いてきたと思う。発電所の是非を議論するのではなく、透明性を確保することを目的とした会。相手の意見を聞きつつ、違うと思ったら自分の意見を述べるということでもいいと思う。

〈現委員〉・会の中では激論を交わすこともあるので驚くかもしれないが、持っている哲学、意見がぶつかるだけで人間性がぶつかっているわけではない。

・わからないことはわからないと意思表示することが必要。わからないときは「その説明ではわからない」と国や自治体に指摘することで、一般の人にもわかりやすい透明性の確保ができる会と思う。

〈現委員〉私もはじめは説明されていることが専門的でわからなかった。何がわからないのかもわからなかったが、せつかく委員になったということもあり、自分なりに少しずつ勉強をした。他の委員の方々の意見はとても勉強になる。

〈新委員〉

- ・ 怖がることは正しく怖がる。わからないこと、わかることをはっきり自分の中で区別をつけていきたい。
- ・ 議論を重ねることによっていい方向に向いていくと思う。質問したくでも知識不足で質問もできないが、これから勉強をしていきたい。
- ・ 推進か反対か自分の中で整理がつかないところもあるので、これから考えていきたい。
- ・ 地域住民の立場で、勉強しながら参加させてもらいたい。
- ・ 賛成、反対両論あっていいと思う。それが事業者や国、自治体など発電所に関わる人たちの真面目な取り組みに繋がると思う。これからいろいろと勉強していきたい。

〈会長〉・住民の目線でということなので、自然体で活動していただきたい。

➤ 原子力安全・保安部会基本政策小委員会説明

会長より、総合資源エネルギー調査会原子力安全・保安部会基本政策小委員会について概略説明。

〈会長〉・主に安全規制について国民といかにコミュニケーションを図るかといった点において議論をするようだ。委員に委嘱されたのも地域の会のこれまでの活動が評価されたものと考えているので、今後も都度状況をお知らせしていきたい。